

製品名: FAK マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80802**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|---|
| 説明 | マウスモノクローナル抗体 |
| 宿主 | ねずみ |
| 応用 | WB,IHC,ICC,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | Mouse IgG1 |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 119kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 遺伝子名 | FAK |
| 別名 | FAK; FADK; FAK1; FRNK; pp125FAK; PTK2 |
| 遺伝子 ID | 5747.0 |
| SwissProt ID | Q05397 |
| 免疫原 | 大腸菌で発現したヒト FAK の精製された組み換え断片。 |

背景

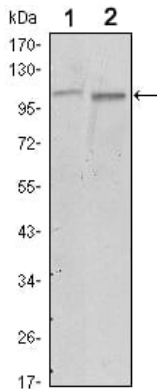
この遺伝子は細胞質タンパク質チロシンキナーゼをコードしており、細胞外マトリックス成分の存在下で増殖する細胞間に形成される接着斑に集中して存在します。コードされているタンパク質はタンパク質チロシンキナーゼの FAK サブファミリーに属しますが、

他のサブファミリーのキナーゼとの顕著な配列相同性は欠いています。この遺伝子の活性化は、特定の神経ペプチドまたは細胞と細胞外マトリックスとの相互作用に反応して誘導される細胞増殖および細胞内シグナル伝達経路の重要な初期段階である可能性があります。この遺伝子には、4つの異なるアイソフォームをコードする少なくとも4つの転写バリエーションが見つっていますが、そのうち全長の性質が決定されているのは2つだけです。組織特異性：試験した全ての臓器、リンパ系細胞株で発現しているが、脳で最も多く発現している。RD：接着斑キナーゼ1 (FAK) は、普遍的に発現する非受容体型タンパク質チロシンキナーゼであり、細胞外マトリックス成分の存在下で増殖する細胞間に形成される接着斑に集中している。この細胞局在は、

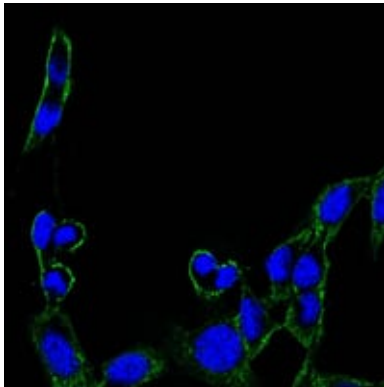
研究分野

PI3K-Aktシグナル伝達経路

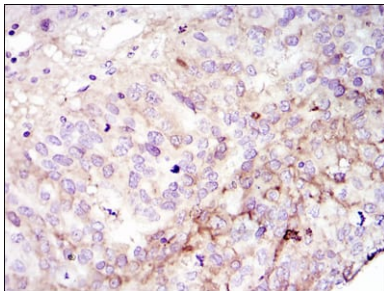
画像データ



A549 (1) および NIH/3T3 (2) 細胞溶解物に対する FAK マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



FAK マウス mAb (緑) を用いた B16 細胞の免疫蛍光染色。青：DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



FAK マウス mAb と DAB 染色を用いたパラフィン包埋ヒト子宮頸部腫瘍の免疫組織化学分析